



釧路小学校 【児童数 311名（平成28年5月現在）／指定日 平成27年3月31日】

目指す子供像：釧路を愛し 元気な子ども 和気あいあいと 共に育む コミュニティ・スクール

絵本読みで心を豊かに ～共に和気あいあいと子どもを育む学校～



「にこにこのたね」による劇『わらしべ長者』
絵本の中から登場人物が飛び出てきたみたい

絵本読みボランティア「にこにこのたね」は、コミスクの認定前から、保護者の自主的活動の一つとして読み聞かせを行ってきました。現在、保護者だけではなく、地域の方やOG（卒業生の保護者）が分担し合っ、毎週水曜日の朝に各学級で絵本の読み聞かせをしています。子どもたちは、いつも真剣な眼差しで聞いてくれています。

3学期には、子どもがよく知っているお話を劇にして全校児童の前で発表することが恒例になりました。和気あいあいとした雰囲気の中、絵本の読み聞かせを通して子どもの豊かな心の成長につながっていくことを願っています。

CS 関係者の声

朝 8 時 25 分、小さな子どもを連れたり、仕事前だったりしながらもたくさんのメンバーが学校に集まります。朝の 10 分間のために、お母さんが学校に行くのは大変なことですが、長い間続いているのは、きっと「楽しい」からに違いありません。学校の重点である「心の豊かさ」を育成するため、いい顔で絵本読み聞かせを待っていてくれる子どもたちと気持ちよく活動を応援して下さる職員の皆さん、そして地域の方の協力による「にこにこのたね」を続けていきたいと思ひます。



「にこにこのたね」
代表 三島 千寿さん



中央小学校 【児童数 190名（平成28年5月現在）／指定日 平成27年3月31日】

目指す子供像：次代の釧路を考えられる子ども

～子どもたちが今、学んでいるこの地をより深く知り、大切にすることを育むために～

地域とともに豊かな心を育む ～子どもたちがこの地をより深く知り、大切にすることを育むために～



保護者や地域の方による朝の読み聞かせは、
子どもたちとの素敵なコミュニケーションです

読み聞かせボランティアの「くまのがっこう」は、2010年に立ち上げられましたが、学校の建て替え等により運営の危機に陥りました。

昨年度よりCS指定校となり、学校運営協議会の中で、学校が掲げる「豊かな心」の育成に向け、読み聞かせの必要について話し合い、地域・保護者に呼びかけを行いました。現在、22名のメンバーが、年間を通じて、毎週木曜日、全学年で朝の読書タイムに読み聞かせを行っています。

学年を問わず、子どもたちは想像力豊かに読み聞かせに耳を傾け、落ち着いた朝の時間を過ごしています。

CS 関係者の声

当協議会では、登下校の見守り運動やラジオ体操を行う「ほのぼの部」、学習支援や読み聞かせ等を運営する「すくすく部」の両輪で活動しています。中でも「くまのがっこう」の取組は、学校運営方針の「豊かな心の育成」を目指し、図書室の環境整備、読み聞かせの研修等を行うなど、子どもたちの元気な笑顔のために積極的に活動しています。



中央小学校
コミュニティ・スクール協議会
会長 西村 毅さん

コミュニティ・スクール指定校の取組



阿寒湖小学校 【児童数 65名（平成28年5月現在）／指定日 平成26年4月1日】

目指す子供像：ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる子ども

地域の自然を大切にする ～体験活動の充実による学校教育活動への支援～



森林と自分たちの暮らしの結び付きについて学習する
阿寒湖小学校の子どもたち

当協議会では、地域の支援を受けている学校行事と教科の関連について話し合われました。その評価をもとに活動内容を見直し、年間指導計画への位置付けを進めています。

毎年5月末に行っている植樹遠足では地域の植樹祭に参加することを通して、苗木植えや下草刈り、間伐などを体験しています。5年生社会科「環境を守る人々」では「植樹遠足」で体験したことが学習に生かされている活動の一つです。

体験と学習をしっかりと結び付けることで、子どもたちの学習意欲や郷土愛が高まっています。

CS 関係者の声

森林と私たちはともに生きています。森林は動物にとって大切なすみかであると同時に、私たちにきれいな空気や水をもたらし、災害も防いでくれます。学校行事への支援として、森林を守ることの大切さを体験させていきたいと考えています。



阿寒湖小学校
コミュニティ・スクール協議会
会長 酒井 賢一さん



阿寒湖中学校 【生徒数 23名（平成28年5月現在）／指定日 平成28年3月31日】

目指す子供像：ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる子ども

地域に学び、地域に生きる木彫教室 ～ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる子ども～



地域の方々の指導で、アイヌ文化を体験的に学ぶ

阿寒湖中学校では、以前より地域の方々が先生となって阿寒湖の伝統文化、自然を生かした教育活動を行っていました。自分が生きているこの場所で、本物の人（地域の指導者）から本物のこと（地域の伝統文化、自然）を直接学び、体験することは、子どもたちの自尊感情を確実に高めていくと考え、マリモ観察会、アイヌ文化であるムックリづくり、木彫教室などを行っています。

当協議会では、地域の方々が積極的に講師となって参画するよう努めており、子どもたちがふるさとを愛する活動を支えています。

CS 関係者の声

地域住民が学校の方針の一つである「ふるさとを愛する心」を育てることにより、子どもが自分も地域の一員であることを自覚し、将来、阿寒湖に戻って来るようになれば良いと思います。「子どもたちのために」が「阿寒湖地域のために」につながり、学校と地域が連携して、より良い地域社会を創造できればと思います。



阿寒湖中学校
コミュニティ・スクール協議会
会長 本間 新次さん